

本市では、現在、中学生の年齢まで誰もが必要な医療を受けられる体制とし、窓口無料化を導入しています。また、保健センター内に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠前から子育て期における切れ目のない支援を提供するため、関係機関との連携によりさまざまな事業を実施しております。

そのような中、貴会におかれましては、平素より市民の安全・安心な暮らしのために地域医療の環境整備に向けて、ご尽力いただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

長引くコロナ禍において様々な感染症対策を講じる中、本市としては更なる医療資源の確保に向けた取組の重要性を感じています。

現在は民間の基幹的病院を中心に救急医療体制の構築を図っていただいておりますが、県内全域で医療人材の不足等の理由により特に小児救急などは市内で十分対応できていない状況にあります。

こうしたことから、まずは看護師を志す学生を対象とした奨学金制度を創設するなど、大学や医療機関と連携を図りながら医療人材不足の解消と定着化につなげるとともに、安心して子どもを産み育てることができる環境と人口20万人都市の医療体制を構築できるよう取り組んでまいりますので、今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。



鈴鹿市長 末松 則子

鈴鹿の地域医療を応援する会 活動の報告



鈴鹿の地域医療を応援する会は、現役の医師、有志の市民、三重県議会議員と鈴鹿市議会議員が参加して鈴鹿市健康づくり課や鈴鹿市消防本部と連携しながら27回地域での出前講座を開催しました。鈴鹿の市民が安心して暮らせるよう地域医療が崩壊しないことを最も重要な課題として活動しています。

これまでの連携の成果

私たちのメンバーが議会の委員会や一般質問で政策提案を行ったことで、行政内部でも地域医療への取り組みが広がり、鈴鹿市の地域医療政策が進みました。また、皆さんの署名が鈴鹿市を動かし、市が大学と病院に働きかけたことで現在の鈴鹿市の小児救急体制が守られています。

私たちのこれまでの取り組み

| | |
|--------|---|
| 平成21年 | 御菌・飯野・久間田・愛宕・寺家地区にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成22年 | 稲生・郡山・牧田・玉垣地区にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成23年 | 三日市地区・バリアフリーホームズ・合川・稲生・箕田・若松地区にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成24年 | 石薬師・庄野地区・JA鈴鹿本店・箕田小学校PTA・鈴鹿市PTA連合会にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成25年 | 鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成26年 | 江島カルチャーセンター・若松・合川・御菌地区・第一さくら幼稚園にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成27年 | 鈴鹿市文化会館にて女性の医療を考える会開催(5月) 加佐登地区にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 平成29年～ | 中学生への救命講習(心肺蘇生・AED取り扱い)を実施 |
| 平成30年 | 鈴鹿市救急フェアに鈴鹿医療科学大学生と参加(9月) 高岡台地区にて 地域医療を考える市民講座開催 |
| 令和4年 | 鈴鹿市救急・健康フェア2022に参加 |



あなたはAEDを知っていますか？ 鈴鹿の中学生は知っています。

私たちは、2016年の地域医療を応援する会に末松市長と消防本部からの出席をいただき、鈴鹿市消防本部では、市民ボランティアの応急手当普及員が多数誕生しているが、今後どのように応急手当普及員を活用していくのかを話し合いました。数ヶ月後の地域医療を応援する会では消防本部として、今後市内の中学校10校の2年生全員に救命講習会90分の「心肺蘇生とAEDの取り扱いの講習」を実施して心臓急停止の急病人を一刻も早く救助のお手伝いをして頂く事を考えていますとの事でした。その後、2017年から市内10校の中学2年生全員に市民ボランティアの応急手当普及員が市民救命インストラクターとして、消防本部と合同で市内10校の中学生に心肺蘇生の重要性とAEDの使用の役割についての講習会を2022年の現在まで実施しています。



▲講習に取り組む中学生のみなさん

NHKのニュースでは鎌倉市での中学生による「クラブ活動中、先生が突然倒れ心肺蘇生とAEDで救助した」など中高生による人命救助が大きく報道されています。

鈴鹿市内での中学生への心肺蘇生とAEDの取り扱い救命講習会は6年目に入っていますが毎回生徒たちは、一生懸命頑張って真剣に取り組んでいます。

三重県内の中学校では、鈴鹿市に比べまだ少数の中学校でしか救命講習会を実施しておりません。 応急手当普及員 伊藤 智章